

大阪南ロータリークラブ会報

第 815 号
2026 年 2 月

Rotary
Club of Osaka-South

事務局 〒536-0011 大阪市浪速区日本橋西 1-2-11
マルニビル 7 階 B
例会日 毎週火曜日 午後 0 時 30 分
例会場 センタラグランドホテル大阪 3 階
会長 新開 隆浩 幹事 清水 久博

第 3 回クラブフォーラム

職業奉仕部門

日 時：2026 年 1 月 27 日（火）
午後 5 時 30 分登録、午後 17 時 50 分開会
場 所：ホテル日航大阪 7 階
「フォンタナ」中央区西心斎橋 1-3-3
☎ (6244) 1111
討議部門：職業奉仕部門
形 式：バズセッション

C テーブル ◎佐藤研、藤井、樋口纏、菰田、
桑原、清水、下井、上田
D テーブル ◎上甲、平岡、岩崎、栗原、
奥長、末澤、鈴木慶
E テーブル ◎井原、樋口喜、中島、小椋、
田村、寺川、横山慶
F テーブル ◎橋本、天野、原田、加藤、
新田一、奥田、島本、由谷
G テーブル ◎米田秀、相川、長谷川孝、
金森、新居、佐南、澤村
H テーブル ◎伊藤芳、一瓢、松山、中村剛、
大原、岡田、山岡
I テーブル ◎森、寶來、川谷、岡島、
谷村、寺本、神藤、八ッ橋

議 題：

- ① 職業奉仕委員会では「職場見学会」「出前授業」「中学生の職場体験」など継続事業として実施しているが、今後も継続すべきと考えますか。
また、実施した事業で得た成果をどのように会員に還元すべきと考えますか。
- ② 職業奉仕がクラブ奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、社会奉仕と連携した事業の具体策についてどのようなものがあると考えますか。

出席者(敬称略. 順不同) 67 名

◎テーブルマスター

A テーブル 新開、草島、飯井、武田、
木村、岩谷、河野、山本和

B テーブル ◎佐藤元、羽東、小畑、小八木、
岡本直、柚、杉田



1、開会挨拶：新開会長

よいことの
ために
手を取りあおう
2025-2026
のテーマ

よいことのために手を取りあおう
「素敵な笑顔」に出会いたい ~笑顔で繋ごう! より良い未来へ~

フランチェスコ・アレツォRI会長
新開 隆浩会長

例会に続いて多くの会員にご参加いただきありがとうございます。67名の出席と3名の初参加者を歓迎します。

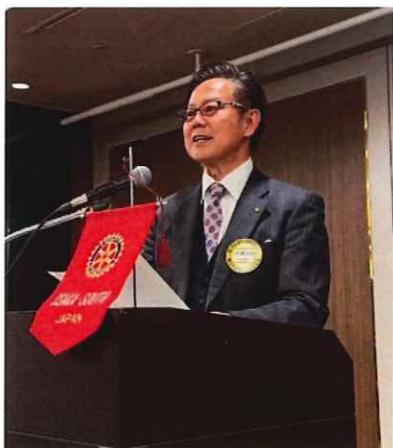
本日のテーマである「職業奉仕」は、社会奉仕と混同されやすいものの、昨年の万博事業のように、会員それぞれの専門性やネットワークを活かした取り組みは、職業奉仕の本質にも通じると思っております。クラブフォーラムはバズセッション形式で進行し、正解はないです。入会歴や経験に関わらず、自由に意見を述べることで新たな気づきが生まれるので、初参加の会員にも積極的な発言を期待しております。

ぜひとも各テーブルが活発に議論し、実りある時間となることを祈念しております。

2、テーブルマスター指名：清水幹事

3、初参加の新入会員紹介

金森会員、奥田会員、杉田会員



4、ゼネラルリーダー議題説明：

佐藤元職業奉仕委員長

今年度は職場見学会、出前授業、中学生の職場体験など、会員の皆さまのご協力により多くの事業を順調に進めることができました。学校側からの要望にも柔軟に対応しながら成果を積み重ねてきました。これらの取り

組みを踏まえ、今後の職業奉仕の方向性を考えるために、今回は“継続事業を今後も続けるべきか、その成果をどのように会員へ還元すべきか”という点と、“職業奉仕を他の奉仕部門とどのように連携させていくか”という二つの議題について、自由に意見を交わし、新たな可能性を見いだしていただきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



5、キーノートスピーチ：木村元会長

ロータリーにおける職業奉仕は、創立当初のクラブ内取引を中心とした活動から、倫理観と奉仕の理念を基盤とする組織へと発展してきた歴史を持ち、1910年代以降に確立された“最もよく奉仕する者が最も多く報いられる”という精神や決議23-34に示された倫理原則がその原点を形づくっています。職業奉仕は単なる事業ではなく、ロータリアンとしての哲学・倫理観そのものであり、例会やフォーラムは互いに学び合い、職業を通じて社会に奉仕する姿勢を磨く“人生の道場”であります。会員一人ひとりが自身の職業的才能を発揮し、互いに切磋琢磨しながら奉仕の心を実践していくことこそが、ロータリーの本質であり、今後とも活動を続けていただけてほしいです。



6、乾杯：武田元会長

職業奉仕は難しいテーマに見えますが、本来は“職業を通じて社会に奉仕する”という極めてシンプルで本質的な考え方であり、企業や学校が創業者の理念や経営方針を守り続けることで社会から信頼を得ていく姿勢そのものが職業奉仕の精神に通じるものであります。トヨタの社長が“利益ではなく良い車をつくる会社でありたい”と語った逸話があります。理念を問い直す姿勢こそが職業奉仕の核心であります。また、入会したばかりの会員がフォーラムに必ず参加するという大阪南ロータリークラブの伝統は、クラブの精神を次世代へ受け継ぐ大切な文化であり、これも職業奉仕の実践に通じていきます。今日のフォーラムは結論を求める場ではなく、職業奉仕への理解を深める機会となることを期待し、活発な意見交換を願っております。

7、テーブルマスター報告（発表順の通り）



I テーブル：森職業奉仕委員

木村元会長のキーノートスピーチが職業奉仕の理解に大きな気づきを与えたとの声から議論が始まりました。今年度の取り組みについては概ね継続を望む意見が多かったものの、職場見学会については職業奉仕の枠にとられず、会員企業を知る“友好促進の場”として別枠で考えるべきではないかとの提案がありました。また、職業奉仕を他の奉仕部門とどう連携させるかについては、自社の事業がどの奉仕分野に最も近いのかを各会員が考える機会をクラブとして設けるべきだとの意見が出され、職業分類ごとの小グループで奉仕の可能性を話し合う場をつくる案も示されました。さらに、出前授業が学校から再依頼を受けるなど社会的な評価を得ていることや、奉仕を“サービス”ではなく“貢献”と捉えることで職業奉仕の理解が深まるとの指摘がありました。中学生の職場体験では、主体的に現場を希望する生徒や、笑顔の挨拶の大切さを学んだという感想が寄せられ、こうした活動が若い世代の成長に確かな影響を与えていることを実感しました。



H テーブル：伊藤芳例会運営委員

中学生の職場体験について、実際に受け入れを行った会員から具体的な様子が共有され、外国人の生徒や引っ込み思案な生徒など

多様な子どもたちが参加しており、うまくいかない経験も将来の適性を知る貴重な学びになるとの意見がありました。また、今年の職場見学会は会員企業を訪問する機会が増え、普段接している会員の仕事を直接知ることができた点が非常に良かったとの声が多く、こうした成果は卓話や映像でクラブ全体に還元すべきだとの提案がありました。さらに、職業奉仕と他の奉仕部門との連携については、新しい事業を考えるのは容易ではないものの、既存の活動自体がすでに国際奉仕や青少年奉仕と結びついているとの指摘があり、今度、台湾国際大会での半導体工場見学に行かせてもらう事や、外国人客を迎える現場での体験など、現在の取り組みの中にも多くの連携要素が含まれているのではと確認されました。



Gテーブル：米田秀会員友好委員長

議論は当初のテーマにとらわれず、各会員が“自分の職業を通じてどのように社会へ貢献しているか”を語り合う形で進み、木村元会長の『I Serve』の理念を踏まえた職業奉仕の本質を共有する場となりました。税理士からは納税教育を通じて若者や高齢者に税の意義を伝えていること、建築関係の会員からは建物づくりが地域文化の形成に寄与していること、証券会社経験者からは経済情報を伝え

ることで顧客の判断を支える役割が語られ、通信業の会員からはインフラ整備だけでなくアプリの安全な使い方を教えることが社会貢献につながるとの意見が出されました。こうした“職業を通じた貢献”を互いに知るところが、フォーラムの成果をクラブに還元する最も有効な形であり、武田元会長の『フォーラム出席は伝統である』という言葉とも重なります。また、他奉仕部門との連携については、青少年との交流やファミリークラブでの経験共有が具体的な連携策となり得るとの意見があり、先日の清掃奉仕で若者と対話した経験など、既存の活動の中にすでに多くの連携の芽があることを確認しました。



Fテーブル：橋本会員友好委員

議論の冒頭で“まず定款を読むべきだ”との指摘があり、事業の継続可否を判断するには、各事業の目的を明確にしたうえで取り組むべきだとの意見が出ました。職場見学会については、従来の“見学して学ぶ”という姿勢に加え、訪問先に対して会員側から改善提案を行うなど、双方向の価値を生む見学会に発展させるべきだとの提案があり、得られた学びを例会やテーブルで共有することでクラブ全体に還元できるとの意見がでました。出前授業に関しては、学生から“いくら儲かるのか”“給料はいくらか”といった質問が

寄せられた実体験が紹介され、華やかな職業だけでなく、泥臭いブルーカラーの仕事を伝える機会も必要ではないかとの声が上がりました。また、学生の価値観や反応そのものをクラブに共有することも還元の一つであるとの意見があり、若い世代には今後の学びの中で成長していけばよいとの前向きな見方も示されました。職場体験については経験者が少なく具体的な議論には至らなかったものの、事業の目的を見据え、得た学びをクラブに返していく姿勢が重要であるとの認識が共有されました。



Eテーブル：井原S A A

職場見学会に初めて参加した会員も多く、職業奉仕の本質を学ぶ貴重な機会となったとの声があり、議題①の職場見学会については、実際に現場を訪れることで得られる“迫力”や“刺激”は大きく、継続すべきとの意見が多数を占めました。一方で、見学に参加した者だけが得られる感動をクラブ全体に共有する仕組みが必要であり、例会後に30分程度の報告会を設け、映像を用いた事業報告を行う場をつくるべきだとの提案がありました。また、撮影した映像を会員限定でオンライン配信することで、参加できない会員にも体験を共有できるとの意見も示されました。議題②の“他奉仕部門との連携”については、青少

年が工場見学やロボット技術などを体験することで大きな刺激を受け、将来の進路形成にもつながる可能性があるとの指摘があり、職業奉仕の取り組みを青少年奉仕へ広げることが有効ではないかとの意見が出されました。また、今後はIT化が進む中で、工場見学だけでなくデジタル分野での体験機会をどのように提供するかも検討すべきだとの提案がありました。



Dテーブル：上甲例会運営委員

議論の冒頭こそ脱線しかけたものの、最終的には全員が職業奉仕の本質に向き合い、3つの事業はいずれも継続すべきとの意見で一致しました。特に、平岡会員からは、現代の中学生・高校生は医師や弁護士など限られた職業しか身近に感じられず、受験中心の生活の中で多様な職業に触れる機会が乏しいため、出前授業や職場体験は社会的意義が大きく、継続すべきだと強調されました。成果の還元については、卓話や報告だけでなく、会員が実際に参加し体験する機会そのものが最大の還元であるとの意見が多く、参加枠の制約と会員数の増加という矛盾をどう解消するかが今後の課題として挙げられました。また、職業奉仕と他奉仕部門の連携については、職業奉仕は“職業を通じてニーズに応える”という理念であり、国際奉仕・社会奉仕・青少

年奉仕などはその理念を実現するための具体的な活動領域であるとの指摘がありました。

したがって、職業奉仕と他奉仕部門は本来不可分であり、連携策を新たに考えるというより、すべての奉仕活動の根幹に職業奉仕の精神があると理解すべきだとの結論に至りました。



Cテーブル：佐藤研職業奉仕副委員長

職場見学会を受け入れた会員が複数参加していたことから、開催側の視点での意見が多く寄せられ、見学を受け入れたことで社員のモチベーションが大きく向上したとの報告がありました。また、訪問した会員にとっても経営者同士が互いの仕事を知り刺激を受ける貴重な機会となり、開催側・参加側双方に意義があったとの評価が示されました。一方で、参加人数が限られてしまう点は課題であり、より多くの会員が参加できる機会を広げるべきだとの意見もありました。中学生の職場体験については、委員会メンバーであっても内容を十分に把握できていない現状が共有され、職場体験の様子を会員が見学したり、情報発信を強化したりする必要があるとの指摘がありました。

議題②の他奉仕部門との連携については、先日の生國魂神社での清掃奉仕がまさに複数委員会の協働であり、こうした連携を進めるには年度開始前に計画的に調整することが

有効ではないかとの意見が出ました。

Bテーブル：佐藤元職業奉仕委員長

役割を通じて得られた人間関係の広がりや、前任者との丁寧な引き継ぎによって築かれた信頼関係への感謝が述べられた後、テーブルでは議題にとらわれず、職業奉仕の本質や日頃の活動から得た気づきを自由に共有する形で議論が進みました。インターンシップでは、学校側が“社会を知る機会”を求める一方、企業側には“良い人材との出会い”への期待もあり、双方の思いの違いを理解しながら奉仕の精神で取り組んでいるとの意見がありました。議論をまとめると、第一に、会員同士が互いの職業を知る機会を例会の中に設けるべきだとの提案があり、短時間でも職業紹介の場があれば理解が深まるとの声が上がりました。第二に、活動の情報共有について、外向けの広報だけでなく、会員向けの“内向きの広報”を充実させる必要があるとの意見が示されました。第三に、会員自身の職業が社会にどのように役立ち、どのように喜ばれているのかを共有する場を設けることで、職業奉仕の意義を実感できるとの意見があり、若い世代との関わりを通じて社会理解を促す取り組みの重要性も指摘されました。これら三点を中心に、職業奉仕の深化と会員間の理解促進が必要であるとの認識が共有されました。



8、ゼネラルリーダー講評：岩谷職業奉仕 担当理事

今回の議題は自らが考案したものであり、抽象的すぎず、会員が自分の職業と奉仕の関係を具体的に考えるきっかけになるよう意図して設定したものであります。各テーブルで活発な意見交換が行われたことに感謝いたします。

ロータリーの基本には“人づくり”があり、職場見学会はまさに会員同士の内なる人づくりに資する取り組みであります。少人数制で実施した背景には、会員同士が互いの職業を深く理解し、距離を縮める機会をつくりたいという思いがありました。また、出前授業については、職業そのものを説明するのではなく、職業人としての姿勢や仕事への向き合い方を子どもたちに伝えたいという意図があり、奉仕部門の垣根に悩んでいましたが、ロータリーの理念に照らせば、最終的には“4つのテスト”に合致しているかどうかで判断すればよいと考えるに至りました。皆様からの寄せられた多くの意見に感謝申し上げます。



9、閉会挨拶：河野副会長

本日のフォーラムは、木村元会長の要点を凝縮したキートンスピーチに始まり、武田元会長の“新人は必ずフォーラムに参加すべき”という言葉に象徴されるように、学びと気づきに満ちた時間となりました。各テーブルの発表でも多くの示唆が示されましたが、特に中学生の職場体験で『挨拶は自分から先にするものだと気づいた』という声が紹介され、職業奉仕の原点が日々の小さな実践にあることを改めて感じさせられました。最も効果的な奉仕は、間違いなく自分の職場の中にあるという言葉のとおり、今日得た気づきを明日からの仕事に生かし、毎日一度は“素敵な笑顔”に出会えるよう努めることが、良き職業人としての成長につながると思います。本日は皆さま本当にお疲れさまでした。

(文責： 副幹事 末澤 市子)

1月定例理事会

協議事項

1. 新入会員交流会の件
2. キャッシュレス決済の件
3. 退会届の件

審議事項

1. 第4回クラブフォーラム（財団部門）開催の件
2. クラウド型出欠確認システム導入の件

報告事項

1. 第2回クラブアセンリー開催の件
2. 第3回クラブフォーラム（職業奉仕部門）登録状況
3. 出前授業の件
4. 大阪南 RAC 地区補助金事業決算報告について
5. ニコニコの件
6. 春の家族会開催案内の件
7. その他

ニコニコ箱へ

東大阪西 RC

竹谷 裕人 会員から ・例会の貴重なお時間をいただきます。ロータリーデーのPRに参りました。よろしく申し上げます。

東大阪西 RC

吉村 篤 会員から ・IMロータリーデー、ご参加よろしく申し上げます。

東大阪西 RC

藤原 史嗣 会員から ・本日は貴重なお時間いただきありがとうございます。

藤野 研一 会員から ・ISFR 長野スキー大会、42年ぶりの岩岳で42年ぶりのタイムレース、楽しかったです。山岡さんはじめ、参加された皆様、ありがとうございました。

井原 基博 会員から ・山田副SAA力作のクラウド型出欠確認システムをよろしく申し上げます。

河野 修 会員から ・生國魂神社清掃奉仕と青少年交流事業の準備に当たっていただいた寺川理事をはじめとする青少年奉仕各委員会の皆様、お疲れ様でした。大阪南RCファミリーの底力を感じる事が出来る素晴らしい企画で、笑顔あふれる一日となりました。

木積 智子 会員から ・先日は9番10番テーブル合同懇親会に多数ご参加を頂き、賑やかな会となりましたこと御礼申し上げます。黒田さんお疲れ様でした。下井さんお店のご紹介を有難うございました。

栗原 大 会員から ・スキー同好会の皆さん、白馬3日間お疲れ様でした。山岡 ISFR 理事、色々と本当にありがとうございました。中村剛元会長兼宴会部長、山本和団長、岡村会計、いつもお役目お疲れ様でございました。楽しい3日間でした。本当にありがとうございました。

- 草島 葉子 会員から ・青少年奉仕の合同事業では大変お世話になりました。
寺川理事はじめ皆様方に心より感謝申し上げます。
- 松山 大祐 会員から ・青少年合同事業、清掃、講和、ワークショップ！
大変有意義な時間となりました。寺川理事、谷村委員長、青少年部門の皆様、
ありがとうございました。
- 飯井 克典 会員から ・山岡さんはじめ皆様、白馬では大変お世話になりました。新田さんには温泉
ツアーありがとうございました。。
- 中尾 徹司 会員から ・昨日は、佐藤委員長をはじめ 20 名の方々に城南学園小学校にお越しいただき、
5 年生、6 年生に出前授業をして頂きありがとうございました。
他人の意見を否定せず、互いを認め合いながら話し合う大切さを改めて教えて
頂きました。ありがとうございました。
- 大熊 直子 会員から ・山岡様はじめスキー同好会の皆様、3 日間とても楽しかったです。
ありがとうございました。お天気良すぎたので、日焼けのケア頑張らねば！
- 酒井 康生 会員から ・卓話の高原さんをよろしくお願います。
- 佐藤 元相 会員から ・昨日、城南学園にて出前授業を無事開催出来ました。理事、副委員長をはじめ
とする職業奉仕委員会の皆様、そして 20 名ものロータリアンの皆様の手厚い
サポートに心より感謝申し上げます。地域貢献を通じ、子ども達の喜ぶ姿を
見られたことが何よりの励みとなりました。
皆様のご協力のおかげで、素晴らしい奉仕の機会をいただけたことに感謝し、
ニコニコさせていただきます。本当にありがとうございました。
- 新開 隆浩 会員から ・寺川理事はじめ青少年奉仕グループの皆様、寒い中の設営ありがとう
ございました。
・出前授業とても楽しかったです。佐藤元委員長はじめ職業奉仕委員会の皆様
ありがとうございました。
・スキー同好会白馬遠征、皆様大変お世話になりました。
- 武田 太郎 会員から ・バッジ忘れて申し訳ございません。卓話者高原様のご紹介ありがとうございます。
- 谷村 一行 会員から ・一昨日の生國玉神社、清風学園にて開催させていただきました。青少年奉仕部門
合同事業では、沢山の皆様にご参加ご協力いただき誠に有難うございました。
大阪南 R C、大阪南 R A C、大阪学院大学 R A C、清風学園 I A C、興國高校
I A C、大阪南なみはやロータリー衛星クラブのファミリーが集結し、奉仕に
ついて学ぶことが出来た事、無事に終えられた事、心より感謝申し上げます。
- 寺川 明宏 会員から ・1 月 2 5 日青少年奉仕部門合同事業にご参加いただき、誠にありがとう
ございました。ロータリーファミリー総勢 7 0 名でした。継続事業として
いければと思います。
- 山本 和良 会員から ・青少年奉仕部門合同事業では寺川理事、谷村委員長、関委員長、菰田委員長
はじめ青少年奉仕関係委員会の皆様ありがとうございました。久々の青少年奉仕
に参加させていただきとても楽しかったです。清掃奉仕させていただき心も体も
暖かくなりました。
・ISFR 白馬ツアーに大阪南 RC スキー同好会で参加して参りました。今回も笑いが
絶えない旅行でした。皆様ありがとうございました。
特に山岡さんには、お世話になりありがとうございました。
- 横山順治郎 会員から ・寒中お見舞を申し上げます。今年も交通ルールを守り安全運転を心掛けましょう。
- 吉田 鉄志 会員から ・5 番・6 番テーブル合同懇親会、津田様と共に幹事させていただきました。
当日は、1 6 名の参加をいただき大いに盛り上がりました。感謝です！